

緑区地域福祉保健計画 山下地区意見交換会の意見を まとめてみました。 どうぞお読み下さい！



Q 地域福祉保健計画地区別意見交換会って？

A 平成16～17年度の2か年をかけて策定する緑区地域福祉保健計画を「できるだけ地域の意見を吸い上げて実践的な計画にしよう」という趣旨のもとに、区内11地区で開催しました。

Q 山下地区はいつどこで行われたの？

A 平成16年7月31日(土)と8月7日(土)の両日、山下地域交流センターで行いました。

Q 話し合いには、何人くらい集まったの？

A 1回目31人、2回目28人で、地域の様々な立場の方が参加しました。

Q どんな話し合いが行われたの？

A 1グループ7～8人で4グループに分かれてグループディスカッション方式で話し合いました。どんな意見も尊重し合おうというルールで、1回目は地域の現状や課題、問題点を出し合い、2回目は1回目で出された課題に対する解決策を話し合いました。

高齢者の問題

困っていること



ひとり暮らし高齢者の緊急時の対応・安否確認
引きこもっている人への対応

病院に長くいられない、介護施設に入れない現状がある。



こんなアイデアが出ました

- 1 地域の行事に参加する、ひとりの時間を少なくする
- 2 民生委員さんにもっと活躍の場を。
- 3 介護の制度について知る機会を増やす、講座などを開催する。
- 4 近くの施設に見学に行くなど、身近なものを知ることから始めよう。
- 5 相談機関や専門の窓口などについて知っていくことが大切。

元気高齢者の社会参加

困っていること

老人会に入る人が少ない。
元気老人が気軽に集まれる場所が無い。



こんなアイデアが出ました

- 1 老人会の平均年齢が高すぎる。前期と後期に年齢を分けて組織化したらどうか。
- 2 老人会は参加の仕方が多様化しているので組織のあり方を考えてもよいのではないか。
- 3 「私はまだ老人ではない」というのではなく、外へ出て他人と話をすること。
- 4 自治会で積極的に希望者を募りお茶飲み会など、趣味を生かした地域のグループ作りをするとよい。
- 5 山下地区は施設が多いので、地域の人が参加できるイベントがあればいい。

高齢者予備軍として

困っていること



病気や要介護時、孤立時など自分自身の不安がある。
高齢者予備軍として何をしたらいいかわからない。

こんなアイデアが出ました



- 1 元気なうちに制度や施設を知る機会を作る。
- 2 介護教室などの集まりを定期的に行う。
- 3 退職後はボランティア活動に関わってみては？必要とされているので積極的に参加する。
- 4 自治会単位で町の職人登録制度を作る。
- 5 いざという時に頼れる友達を作る。
- 6 人と何かすることを積極的に意識していく。
- 7 献血制度のような献サポート制度を作ったらどうか。（後で、自分もサポートを受けられる）

子育て

困っていること

子育てを行う母親等へのサポートが足りない。
子ども会がなくなった自治会がある。



こんなアイデアが出ました



- 1 「ちょっと赤ちゃんを見てあげましょうか？」そんな声かけができるご近所関係を作ろう。
- 2 小学校のコミュニティスペース、団地内の共有スペース（集会所）を有効活用する。（人形劇、読み聞かせ等、親子で楽しめる企画を）
- 3 自治会館をみんなの居場所にしよう（本の交換会等、気軽に集まれる機会を作る）
- 4 自治会館・公園、野外などを利用して高齢者と子どもが自然に交流会で切る機会（イベント）をもつ。（例：テーマを設けて話す、遊びの交換会、経験談披露、バザー、工作教室、道具の使い方を見せる、ラジオ体操、花火大会、子ども会と老人会で一緒にイベントを開催など）
- 5 みどり子育てネットワークを活用して子育てサポートについてみんなで考える。
- 6 保育所など身近な保育施設で受けられるサービスの有効活用。
- 7 出張で子育て教室を開いて、経験者の知恵を伝えよう。
- 8 通学路の危険個所にマークを取り付け、安全教育をしよう。

青少年

困っていること

日常生活におけるマナーが悪い。
地域の中に青少年の居場所がない。



こんなアイデアが出ました



- 1 中高生の居場所を地域の中で作る。
- 2 地べたに座らないようにコンビニの前にベンチを置く。
- 3 テレビを消して話をしよう。
- 4 若年層とのしゃべり場を作ろう。
- 5 青年会を復活させて環境活動、子ども会の手伝い等、交流の場を持つ。
- 6 学校教育の中でもっと子どもたちに受け入れられる道徳教育を。
- 7 地域で青少年が教えるインターネット教室を開こう。

ゴミ問題

困っていること

ごみや犬の糞の始末など、日常生活における基本的なマナーが悪くなっている。



こんなアイデアが出ました



- 1 まず、自分の家の周りをきれいに清掃する。そして、1鉢でもいいから花を置く。
- 2 駅周辺や近所の公園をボランティアで清掃する。
- 3 街路に大きくはみ出した木を切ったり、落ち葉の清掃をする。
- 4 「ポイ捨てをやめよう!」というポスターを目につく所にたくさん掲示する。
- 5 自治会や子ども会が中心になって、こまめに掃除する。親子参加の清掃もいいのでは。
- 6 「やぶれ窓理論*」によるごみの拡大を防ぐため、細かな所も清掃し、汚れたままにしないようにする。
- 7 見て見ぬふりをしないで、気づいた人が片づける。
- 8 マナーが悪い人には、複数で注意するようにする。

*「やぶれ窓理論」: 些細な事柄でもすぐに修復してきれいにしておくことが建物を健全に維持するのに必要であるとする理論

情報の伝達

困っていること

町内会(自治会) 老人会行事等のお知らせを見たことがない。

町内・地区内にどんなグループがあるかわからない。



こんなアイデアが出ました



- 1 思わず見たくなるような町内回覧板づくりをする。
 - ・行政 研修(作り方を)町内 作成
 - ・出前講座(緑学び舎塾)を活用し、地域で勉強会を開く。
- 2 行政での立て看板の提示。手づくり看板の活用。
- 3 イベントの効果的な宣伝活動
- 4 ここに行けば色々なことがわかるという場が欲しい。
場所は自治会で調整して地区の中で何ヶ所か決めて、それをPRする。

防犯

困っていること

電灯がないため、夜道を歩くのが怖い。

空き家に雑草が生え、空き巣等の被害のおそれがある。



こんなアイデアが出ました

- 1 電灯がない、または切れている時は、自治会が管理しているので住民が自治会に連絡する。(電灯の対応は自治会でしている。電柱の必要性は東京電力に電話を。)
- 2 パトロールなどは腕章をつけてグループで動くとき声をかけやすい。

行政組織の 複雑化

困っていること

部署が多く行政の仕組みが複雑化している。

行政が力を出していない。



こんなアイデアが出ました



- 1 区役所の総合案内の設置。目立つ場所、聞きやすい対応。
- 2 具体的な事例を挙げてどこの部署が担当するのか案内書を出す。
(自治会長、民生委員等活動が多い人に対して配布)

地域のつながり

困っていること

近所付き合いを中心とした横のつながりが希薄になっている。
自治会に加入しない人が増えている。
地域内の組織や団体の横のつながりが少ない。



こんなアイデアが出ました

- 1 まずは、あいさつから始めよう。(一人ひとりが自宅の前を通る人、地域で出会う人には必ず声をかける)
- 2 町内の自分の班ぐらいいは、仲良くして、助け合いたい。そのためには声を掛け合うことが大切。自治会館をもっと利用して体育系、文化系を問わず、交流が持てる同好会を作る。そうすれば、他の地区に行かずに近所付き合いが深まる。小学校等の余裕教室を活用して集いの場を作っていく。
- 3 自治会でもこのような意見交換の場を持ち、多くの人の意見を聞く。そして、自治会でできることを一つずつでもいいから行動に移していく。
- 4 地域の情報・人材などを把握できるリーダー(シニアリーダー)をつくる。
- 5 「自治会とは?」「自治会費は何に使われているのか?」といった基本的な説明が必要だと思う。
- 6 アパート住まいの方の自治会加入は、自治会で声かけし、会合を持つ。総会等に出席することから始めて、自治会の活動に参加してみる。
- 7 若い世代の時から自治会活動に参加していく。
- 8 自治会や老人会、子ども会の組織の活用を図る。例えば老人の日を活用して状況確認により活性化する。
- 9 自治会内や地域の組織・団体の役員など横の連絡を充実させる。

アクセス

困っていること

山下地区は、地域の利便性やアクセスが悪い。



こんなアイデアが出ました



- 1 地域で安全マップを作成する。子どもの目から見たマップを作る。
- 2 交通整理をする人をきちんと決める。場所によっては歩道橋も必要。
- 3 区役所へのアクセス手段として、午前2便、午後2便、小型バスを運行させる。
- 4 地下鉄4号線が完成した時点で道路網も整備されるので、循環バスを再構築する。